

絵画の潮流展 明治から昭和の日本画と洋画

エール蔵王 島川記念館所蔵 秘蔵の名品

そごう美術館（横浜駅東口・そごう横浜店） 2017.03.04～04.09

「エール蔵王 島川記念館」は、仙台で多角的な事業を営む「島川隆哉氏」が、20年余をかけて日本画、洋画をはじめ工芸品などの数多くの美術品を収集して、2013年に蔵王連峰を一望の下に見渡せる自然豊かな場所に、“地域社会における文化活動とその活性化に役立てること”を目的に開設した施設である。

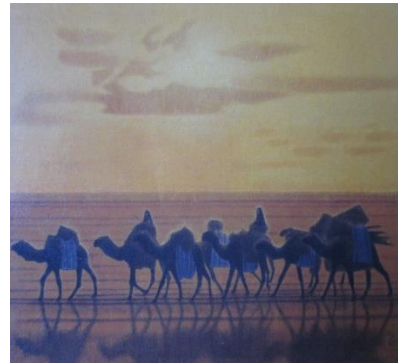
本展は、当館が所蔵する秘蔵の名品より明治～昭和の画家たちが歩んだ足跡を見直し、社会の変化とともに美術の役割を改めて考えて見る良い機会である。

小磯良平《踊り子》 1937年 油彩/キャンヴァス



画伯が女性の踊り子をとりわけ好んで描いている訳は「私はむしろコスチュームの人物に終始惹かれている。踊り子を描く場合も、そのコスチュームに関心があった。踊り子を描くといってもプロのバレリーナを描くのではない。アトリエで、多少バレエの心得のある普通のお嬢さんにバレリーナのコスチュームを着けてもらって描く。」

<展示作品の主なもの> (全て、島川記念館所蔵品)



田中一村《梨花春禽 絹本彩色 左》、佐伯祐三《キュラソーの瓶のある静物中》、平山郁夫《流砂浄土変 右》、他に、片岡球子《喜多川歌麿》、岸田劉生《麗子像》、高橋由一《江の島図》など、近代の日本の画家たち「34人」の作家による「約60点」の心に響く秘蔵ともいえる作品が展示されている。